

# 水質汚濁防止法第5条第1項（特定施設設置届出書） 記載例

様式第1（第3条関係）（表面）

## 特定施設 ~~（有害物質貯蔵指定施設）~~ 設置 ~~（使用、変更）~~ 届出書

香川県〇〇〇〇事務所長 殿

令和〇〇年〇〇月〇〇日

実際に届け出る日を記入する。  
(郵送の場合は発送日)

該当しない項目には二重線を引く。

届出者

〇〇県〇〇市〇〇町〇〇番地〇  
〇〇〇〇株式会社  
代表取締役 〇〇〇〇  
(氏名又は名称及び住所並びに法人にあっては、その代表者の氏名)

水質汚濁防止法第5条第1項 ~~（第2項又は第3項（第6条第1項又は第2項、第7条）の規定により、特定施設 ~~（有害物質貯蔵指定施設）~~ について、次のとおり届け出ます。~~

工場又は事業場の名称	〇〇〇〇株式会社 〇〇工場			
工場又は事業場の所在地	〇〇市〇〇町〇〇番地〇			
第5条第1項関係	特定施設の種類	27-イ ろ過施設 66 電気めっき施設	※整理番号	
	有害物質使用特定施設の該当の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/>	※受理年月日 年 月 日	
	△特定施設の構造	別紙1のとおり。	※施設番号	
	△特定施設の設備（有害物質使用特定施設の場合に限る。）	別紙1の2のとおり。	※審査結果	
	△特定施設の使用の方法	別紙2のとおり。	※備考	
	△汚水等の処理の方法	別紙3のとおり。		
	△排出水の汚染状態及び量	別紙4のとおり。		
	△排出水の排水系統別の汚染状態及び量	別紙5のとおり。		
	△排出水に係る用水及び排水の系統	別紙6のとおり。		
	第5条第2項関係	有害物質使用特定施設の種類		
		△有害物質使用特定施設の構造	別紙7のとおり。	
△有害物質使用特定施設の使用の方法		別紙8のとおり。		
△汚水等の処理の方法		別紙9のとおり。		
△特定地下浸透水の浸透の方法		別紙10のとおり。		
△特定地下浸透水に係る用水及び排水の系統		別紙11のとおり。		

<法人の場合>  
次の事項を記入する。  
・法人の所在地、名称  
・代表者の職名・氏名  
  
<個人の場合>  
事業主の住所、氏名を記入する。

水濁法施行令別表第一の号番号と名称を記入する。

有害物質使用特定施設への該当の有無をチェックする。

該当しない欄には斜線を引く。

様式第 1 (第 3 条関係) (裏面)

第 5 条 第 3 項 関 係	有害物質使用特定施設又は有害物質貯蔵指定施設の別	<input type="checkbox"/> 有害物質使用特定施設 <input type="checkbox"/> 有害物質貯蔵指定施設		
	△有害物質使用特定施設又は有害物質貯蔵指定施設の構造	別紙 1 2 のとおり。		
	△有害物質使用特定施設又は有害物質貯蔵指定施設の設備	別紙 1 3 のとおり。		
	△特有害物質使用特定施設又は有害物質貯蔵指定施設の使用の方法	別紙 1 4 のとおり。		
	△施設において製造され、使用され、若しくは処理される有害物質に係る用水及び排水の系統又は施設において貯蔵される有害物質に係る搬入及び搬出の系統	別紙 1 5 のとおり。		

該当しない欄には斜線を引く。

- 備考 1 特定施設の種類の欄及び有害物質使用特定施設の種類の欄には、令別表第一に掲げる号番号及び名称（指定地域特定施設にあっては、名称）を記載すること。
- 有害物質使用特定施設の該当の有無の欄には、該当するものに✓印を記入すること。  
なお、有害物質使用特定施設に該当しない場合には、別紙 1 の 2 を提出することを要しない。
  - 有害物質使用特定施設又は有害物質貯蔵指定施設の別の欄には、該当するものに✓印を記入すること。
  - △印の欄の記載については、別紙によることとし、かつ、できる限り、図面、表等を利用すること。
  - ※印の欄には、記載しないこと。
  - 排水の排出系統別の汚染状態及び量については、指定地域内の工場又は事業場に係る届出書に限って欄を設けること。
  - 変更届出の場合には、変更のある部分について、変更前及び変更後の内容を対照させること。
  - 届出書及び別紙の用紙の大きさは、図面、表等やむを得ないものを除き、日本産業規格 A 4 とすること。

◎この記載例で説明している書類のほか、次の添付書類が必要です。

対象者	必要となる添付書類
全て	県別紙様式第 1 「届出書の概要」
畜産農家である場合	県別紙様式第 2 「畜産農家用別紙」 県別紙様式第 3 「農地還元承諾書」
有害物質の保有・取扱いがある場合	県別紙様式第 4 「該当する有害物質の項目」
有害物質使用特定施設又は有害物質貯蔵指定施設の設置がある場合	県別紙様式第 5 「構造基準等への対応」

### 特定施設の構造

工場又は事業場 における施設番号	No. 1	No. 2	水濁法施行令別表第一の号番号 と名称を記入する。
特定施設号番号及び名称	27-イ ろ過施設	66 電気めっき施設	メーカー、型式番号等 を記入する。
型 式	メーカー：〇〇㈱ 型式番号：ABC型123	メーカー：㈱〇〇 型式：〇〇めっき槽	材質を記入し、構造図 (カタログ等)を添付 する。
構 造	材 質：ステンレス 構造図：別図〇のとおり	材質：鉄製 (FRPライニング) 構造図：別図〇のとおり	施設の大きさを記入 する。
主 要 寸 法	直径1.6m×高さ0.8m (詳細は別図〇のとおり)	装置全体 縦1m×横1m×高さ1.5m (詳細は別図〇のとおり)	原則として1施設を想 定される最大作業時間 稼働させた場合の能力 を記入する。
能 力	20m <sup>3</sup> /h	100L/槽×〇槽	配置図を添付する。
配 置	別図〇のとおり	別図〇のとおり	それぞれの予定日を 記入する。
設 置 年 月 日	年 月 日	年 月 日	有害物質使用特定施設 に該当する場合は 「別紙1の2を参照」 と記入する。
工 事 着 手 予 定 年 月 日	令和〇〇年〇〇月〇〇日	令和〇〇年〇〇月〇〇日	
工 事 完 成 予 定 年 月 日	令和〇〇年〇〇月〇〇日	令和〇〇年〇〇月〇〇日	
使 用 開 始 予 定 年 月 日	令和〇〇年〇〇月〇〇日	令和〇〇年〇〇月〇〇日	
その他参考となるべき 事項		有害物質使用特定施設 詳細は別紙1の2を参照。	

備考 1 配置の欄には、当該特定施設及びこれに関連する主要機械又は主要装置の配置を記載すること。  
2 その他参考となるべき事項の欄には、当該特定施設が有害物質使用特定施設に該当する場合には、施設の床面及び周囲の構造等を記載すること。

水濁法第6条の規定に基づき、特定施設の使用届出を行う場合に当該特定施設の設置年月日を記入する。  
水濁法第5条に基づく特定施設の設置届出又は水濁法第7条に基づく特定施設の構造等の変更届出の場合、記入は不要である。

この別紙1の2は、有害物質使用特定施設を設置する場合のみ添付してください。

別紙1の2

特定施設の設備

工場又は事業場における施設番号	No. 2	
特定施設番号及び名称	66 電気めっき施設	
設備	地上配管、排水溝、ためます	
構造	地上配管：ステンレス製 排水溝、ためます： コンクリート製 (厚さ50mm)	
主要寸法	配管：直径100mm×30m 排水溝：幅300mm×深さ200mm ×長さ10m ためます：縦500mm×横500mm ×深さ400mm	
配置	別図〇のとおり	
設置年月日	年 月 日	年 月 日
工事着手予定年月日	令和〇〇年〇〇月〇〇日	年 月 日
工事完成予定年月日	令和〇〇年〇〇月〇〇日	年 月 日
使用開始予定年月日	令和〇〇年〇〇月〇〇日	年 月 日
その他参考となるべき事項	排水溝、ためますには有害物質は流れない。	

別紙1の特定施設のうち、有害物質使用特定施設に該当する施設を記入する。

付帯設備ごとに材質を記入し、構造図を添付する。

付帯設備ごとに主要寸法を記載する。

配置図を添付する。  
※特定施設だけでなく付帯設備の配置が分かるものとする。

付帯設備のうち、有害物質又は有害物質を含む水が流れない設備がある場合は、その旨を記入する。

- 備考1 有害物質使用特定施設に該当しない場合には、本様式を提出することを要しない。  
2 配置の欄には、当該特定施設の設備の配置を記載すること。

特定施設の付帯設備を記入する。

- ・配管等（配管、継手類、フランジ類、バルブ類、ポンプ設備）  
※地下設置の場合はその旨を記入する。
- ・排水溝等（排水溝、排水ます、排水ポンプ等の排水設備）
- ・防液堤、側溝、ためます、ステンレス鋼の受皿等

別紙2

特定施設の使用の方法

別紙1と同じ内容を記入する。

設置場所が分かる図面を添付する。  
 特定施設を含む操作の系統（工程フロー）を記入する。  
 複雑な場合は、資料を添付する。

通常の使用開始・終了時間を記入する。

通常の1日当たりの使用時間を記入する。

特定施設の使用に季節的変動がある場合に、その概要を記入する。  
 例：10月～12月のみ使用する。

特定施設を含む作業工程において使用する原材料（消耗資材を含む。）の種類、使用方法及び1日当たりの使用量を記入する。  
 1日当たりの使用量は、通常の平均的な量を記入する。

特定施設から排出される汚水等の量を記入する。

工場又は事業場における施設番号	No. 1		No. 2			
特定施設号番号及び名称	27-いろ過施設		66 電気めっき施設			
設置場所	別図〇のとおり		別図〇のとおり			
操作の系統	別図〇のとおり		研磨→エッチング→水洗→研磨→出荷			
使用時間間隔	なし		8:30 ~ 17:30			
1日当たりの使用時間	24時間連続使用		9時間連続使用			
使用の季節的変動	なし		なし			
原材料（消耗資材を含む。）の種類、使用方法及び1日当たりの使用量	種類	使用方法	1日当たりの使用量	種類	使用方法	1日当たりの使用量
	〇〇	ろ過	200m <sup>3</sup>	無水クロム酸	水溶液	1kg
				硫酸	水溶液	1L
汚水等の汚染状態	種類・項目	通常	最大	通常	最大	
	水素イオン濃度	6~8	6~8	2~4	2~4	
	生物学的酸素要求量	5	10	40	70	
	化学的酸素要求量	5	10	40	70	
	浮遊物質	10	30	60	100	
	窒素含有量	3	50	20	50	
	燐含有量	0.1	1	10	20	
	六価クロム化合物			200	300	
全有機炭素	5	20	40	70		
汚水等の量 (m <sup>3</sup> /日)	通常	最大	通常	最大		
	20	30	1	10		
その他参考となるべき事項	ろ液は全量次工程で使用するため、排水なし。					

備考 汚水等の汚染状態の欄には、当該特定事業場の排水に係る排水基準に定められた事項について記載すること。

特定施設から排出される汚水等の水質を記入する。  
 有害物質については、排水に含まれ得る全ての項目を記入する。  
 条例に定める水質排水基準が適用される場合は、「全有機炭素」についても記入する。

その他の必要事項を記入する。  
 有害物質使用特定施設において、有害物質を含む水を産業廃棄物として別途処理しているなど、汚水に有害物質が含まれない場合はその旨を記入する。

別紙 3

汚水等の処理の方法

工場又は事業場における施設番号	総合排水処理施設					
処理施設の設置場所	別図〇のとおり					
設置年月日	年 月 日		年 月 日		年 月 日	
工事着手予定年月日	令和〇〇年〇〇月〇〇日		年 月 日		年 月 日	
工事完成予定年月日	令和〇〇年〇〇月〇〇日		年 月 日		年 月 日	
使用開始予定年月日	令和〇〇年〇〇月〇〇日		年 月 日		年 月 日	
種類及び型式	凝集沈殿処理施設 メーカー：〇〇(株) 型式：ABC型123					
構造	材質：ステンレス 構造図：別図〇のとおり					
主要寸法	装置全体 縦7.5m×横10m×高さ3m (詳細は別図〇のとおり)					
能力	100m <sup>3</sup> /日					
処理の方式	トルラ前処理+活性汚泥+脱窒 +凝集沈殿+砂ろ過+活性炭処理					
処理の系統	別図〇のとおり					
集水及び導水の方法	別図〇のとおり					
使用時間間隔	なし					
1日当たりの使用時間	24時間連続使用					
使用の季節変動	なし					
消耗資材の1日当たりの用途別使用量	種類	使用方法	1日当たりの使用量	種類	使用方法	1日当たりの使用量
	トルラ	前処理	10L			
	PAC	凝集	5kg			
	活性炭	吸着	常時設置			

工場又は事業場内の全施設のうちから当該処理施設を特定するために用いている番号、名称等を記入する。

設置場所が分かる図面を添付する。

施設名称、メーカー、型式番号等を記入する。

材質を記入し、構造図(カタログ等)を添付する。

施設の大きさを記入する。

1日当たりの処理能力を記入する。

処理方法を具体的に記入する。

排水処理の系統(工程フロー)を明記した書類を添付する。

汚水等の集水及び汚水等の処理施設までの導水方法を記入する。事業場の全体配置図に集水・導水経路を赤線で明記した図面を添付する。

通常の使用開始・終了時間を記入する。

通常の日当たりの使用時間を記入する。

汚水等の処理施設の使用に季節の変動がある場合に、その概要を記入する。  
例：10月～12月のみ使用する。

汚水等の処理施設において中和、凝集、酸化その他の反応の用に供する消耗資材の1日当たりの用途別使用量を記入する。  
1日当たりの使用量は、通常の平均的な量を記入する。

前ページの続きです。

別紙3 (続き)

### 汚水等の処理の方法

工場又は事業場 における施設番号	総合排水処理施設								
	種類・項目	通常 処理前	通常 処理後	最大 処理前	最大 処理後	通常 処理前	通常 処理後	最大 処理前	最大 処理後
汚水等の 汚染状態 及び量	水素イオン濃度	2~13	2~13	5.8~8.6	5.8~8.6				
	生物化学的酸素要求量	500	600	5	10				
	化学的酸素要求量	500	600	15	20				
	浮遊物質量	150	200	20	25				
	窒素含有量	7	120	5	20				
	燐含有量	15	20	3	5				
	六価クロム化合物	200	300	ND	0.1				
	全有機炭素	500	600	5	10				
量 (m <sup>3</sup> /日)	30	45	30	45					
残さの種類、1月間の 種類別生成量及び処 理方法	脱水汚泥 (10m <sup>3</sup> /月)、特別管 理産業廃棄物として処理委託								
排出水の排出方法	No.1 排水口から〇〇川へ放流 (詳細は別図〇のとおり)								
その他参考となるべ き事項									

汚水等の処理によって生ずる残さの種類及び1月間の種類別生成量並びにその処理の方法の概要を記入する。

排水口の位置、数及び排出先を記入する。

- 備考 1 汚水等の汚染状態の欄には、当該特定事業場の排水に係る排水基準に定められた事項について記載すること。  
 2 排水の排出方法の欄には、排水口の位置及び数並びに排出先を含め記載すること。

〇汚水等の処理施設の使用時における当該汚水等の処理施設による処理前及び処理後の汚水等の汚染状態の通常値及び最大値、当該汚水等の通常量及び最大量について記入する。  
 〇「種類・項目」の欄には、当該工場又は事業場に関する排水の汚染状態の種類・項目について記入し、それぞれの項目について、その汚染状態の値を記入する。  
 〇有害物質については、排水に含まれ得る全ての項目を記入する。  
 〇条例に定める水質排水基準が適用される場合は、「全有機炭素」についても記入する。

### 排水水の汚染状態及び量

工場又は事業場 における施設番号		No. 1		No. 2・No. 3					
排水 の 汚 染 状 態	種類・項目	通	常	最	大	通	常	最	大
	水素イオン濃度	5.8	~8.6	5.8	~8.6				
	生物化学的酸素 要求量	5		10					
	化学的酸素要求量	15		20					
	浮遊物質量	20		25					
	窒素含有量	5		20					
	リン含有量	3		5					
	六価クロム化合物	ND		0.1					
	全有機炭素	5		10					
排水水の量 (m <sup>3</sup> /日)		通	常	最	大	通	常	最	大
		30		45		0			
その他参考となる べき事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>排水口 No. 2 及び No. 3 は、雨水専用である。</li> <li>化学的酸素要求量、窒素含有量及びりん含有量については、自動計測機により毎日監視する。</li> </ul>								

排水口ごとに名称を付け、添付図面に記入する。  
工場又は事業場の全ての排水口について記入する。

雨水専用の排水口で雨天時以外には排水がない場合、通常の欄に0と記入する。

備考 排水水の汚染状態の欄には、当該特定事業場の排水水に係る排水基準に定められた事項について記載すること。

排水口ごとの排水水の汚染状態と量を記入する。  
排水基準が定められている項目のうち、通常排水口から排出される項目や排出されるおそれのある項目について記入する。  
有害物質については、排水に含まれ得る全ての項目を記入する。  
条例に定める水質排水基準が適用される場合は、「全有機炭素」についても記入する。

その他の必要事項を記入する。  
雨水専用の排水口がある場合は、その旨を記入する。



この別紙5は、日平均排水量が50m<sup>3</sup>/日以上の場合のみ添付してください。

別紙5

排水の排水系統別の汚染状態及び量

特 定 排 出 水	業 種 の 区 分	汚染状態 (mg/L)		水 量 (m <sup>3</sup> /日)			汚濁負荷量 (kg/日)		※	
		通常	最大	通常	最大	指定項目の別				
						Q <sub>c0</sub>	Q <sub>ci</sub>	Q <sub>cj</sub>		通常
	無機化学工業 製品製造業	15	20	600	800	400	200	200	9	12
	合 計								9	12
特 定 排 出 水 以 外 の 排 出 水	種類及び用途	汚染状態 (mg/l)		水 量 (m <sup>3</sup> /日)		汚濁負荷量 (kg/日)				
		通常	最大	通常	最大	通常	最大			
	合 計									
その他参考となるべき事項										

〇〇業排水、〇〇製造排水、合併処理浄化槽、生活雑排水などと記入する。

排水口で「特定排水以外の排水」と混合される場合は、混合される前の量を記入する。  
Q<sub>c</sub>の値は、各保健福祉事務所等の担当者に事前に確認したうえで記入する。

排水処理後の水質を記入する。  
排水口で「特定排水以外の排水」と混合される場合は、混合される前の水質を記入する。

通常＝通常の汚染状態×通常の水量÷1,000  
最大＝通常の汚染状態×最大の水量÷1,000

例：  
間接冷却水  
ボイラールロー水  
コンプレッサー使用水  
※処理施設に導水された後排出される場合は特定排水となる。  
※雨水の記入は不要である。

- 備考1 本紙の記載にあたっては、指定項目ごとに作成すること。  
2 指定項目の別の項、汚染状態の項及び汚濁負荷量の項には、指定項目について記載すること。  
3 窒素含有量について記載する場合には、「Q<sub>c0</sub>」を「Q<sub>n0</sub>」と、「Q<sub>ci</sub>」を「Q<sub>ni</sub>」と読み替え、「Q<sub>cj</sub>」の項には記載しないこと。  
4 リン含有量について記載する場合には、「Q<sub>c0</sub>」を「Q<sub>p0</sub>」と、「Q<sub>ci</sub>」を「Q<sub>pi</sub>」と読み替え、「Q<sub>cj</sub>」の項には記載しないこと。  
5 ※印の欄には記載しないこと。

特定排水以外の排水とは、次のものをいう。  
①事業活動その他の人の活動に使用されない水  
②汚濁負荷量が増加しない用途に使用された水

説明の便宜上、別紙4までは日平均排水量が50m<sup>3</sup>/日未満の事例ですが、別紙5以降は日平均排水量が50m<sup>3</sup>/日以上の場合の事例としています。

排水水の排水系統別の汚染状態及び量

窒素含有量について、  
化学的酸素要求量と同様に  
記入する。

		指定項目の別		窒素含有量					※		
特 定 排 出 水	業 種 の 区 分	汚染状態 (mg/l)		水 量 (m <sup>3</sup> /日)			汚濁負荷量 (kg/日)				
		通常	最大	通常	最大	Q <sub>CO</sub>	Q <sub>CI</sub>	Q <sub>CJ</sub>	通常	最大	
		無機化学工業 製品製造業	5	20	600	800	400	400	—	3	4
	合 計							3	4		
特 定 排 出 水 以 外 の 排 出 水	種 類 及 び 用 途	汚染状態 (mg/l)		水 量 (m <sup>3</sup> /日)		汚濁負荷量 (kg/日)					
		通常	最大	通常	最大	通常	最大				
	合 計										
その他参考となるべき事項											

- 備考 1 本紙の記載にあたっては、指定項目ごとに作成すること。  
 2 指定項目の別の項、汚染状態の項及び汚濁負荷量の項には、指定項目について記載すること。  
 3 窒素含有量について記載する場合には、「Q<sub>CO</sub>」を「Q<sub>NO</sub>」と、「Q<sub>CI</sub>」を「Q<sub>NI</sub>」と読み替え、「Q<sub>CJ</sub>」の項には記載しないこと。  
 4 リン含有量について記載する場合には、「Q<sub>CO</sub>」を「Q<sub>PO</sub>」と、「Q<sub>CI</sub>」を「Q<sub>PI</sub>」と読み替え、「Q<sub>CJ</sub>」の項には記載しないこと。  
 5 ※印の欄には記載しないこと。

排水水の排水系統別の汚染状態及び量

りん含有量について、  
化学的酸素要求量と同様に  
記入する。

		指定項目の別		りん含有量						※	
特 定 排 出 水	業 種 の 区 分	汚 染 状 態 (mg/l)		水 量 (m <sup>3</sup> /日)			汚 濁 負 荷 量 (kg/日)				
		通常	最大	通常	最大	Q <sub>CO</sub>	Q <sub>CI</sub>	Q <sub>CJ</sub>	通常	最大	
		無機化学工業 製品製造業	3	5	600	800	400	400	—	1.8	2.4
	合 計								1.8	2.4	
特 定 排 出 水 以 外 の 排 出 水	種 類 及 び 用 途	汚 染 状 態 (mg/l)		水 量 (m <sup>3</sup> /日)		汚 濁 負 荷 量 (kg/日)					
		通常	最大	通常	最大	通常	最大				
	合 計										
その他参考となるべき事項											

- 備考 1 本紙の記載にあたっては、指定項目ごとに作成すること。
- 2 指定項目の別の項、汚染状態の項及び汚濁負荷量の項には、指定項目について記載すること。
- 3 窒素含有量について記載する場合には、「Q<sub>CO</sub>」を「Q<sub>NO</sub>」と、「Q<sub>CI</sub>」を「Q<sub>NI</sub>」と読み替え、「Q<sub>CJ</sub>」の項には記載しないこと。
- 4 りん含有量について記載する場合には、「Q<sub>CO</sub>」を「Q<sub>PO</sub>」と、「Q<sub>CI</sub>」を「Q<sub>PI</sub>」と読み替え、「Q<sub>CJ</sub>」の項には記載しないこと。
- 5 ※印の欄には記載しないこと。

### 用水及び排水の系統

用水及び排水の系統

洗浄水 ⇒ 総合排水処理施設 ⇒ 排水口 No. 1 ⇒ ○○川 ⇒ 瀬戸内海  
 雨水 ⇒ 排水口 No. 2 及び No. 3 ⇒ ○○川 ⇒ 瀬戸内海  
 ※詳細は別図○のとおり

次の内容が分かる図面を添付する。

[図面 1]  
 ①工場又は事業場全体の敷地範囲と配置  
 ②用水系統（青色）  
 ③排水系統（赤色等）  
 ※特定排水と特定排水以外の排水を色分けする。  
 ④雨水系統（緑色）  
 ⑤特定施設の設置場所  
 ⑥汚水等の処理施設の設置場所  
 ※各排水口の位置には、排水口番号を記入する。

[図面 2]  
 用水の工程別フロー図（工程別に使用水量を図上に記入）

	用 途	使 用 水	用水使用量 (m <sup>3</sup> /日)
用途別用水使用量	作業用水	工業用水	500 ~ 600
	冷却用水	地下水	50 ~ 100
	雑用水	地下水	50 ~ 100

用水の使用用途を記入する。  
 例：ボイラー用水、原料用水、洗浄水、冷却水など

用水の種類を記入する。  
 例：上水道、工場用水、地下水、河川水、海水など